

統合分野：在宅看護論

<概要>

今日、病院が中心だった治療の場が、人々の生活する地域の在宅へ移行しています。住み慣れた地域で疾病や障害、健康問題があっても健康な人と同様に生活を送ることを希望し、在宅で生活している療養者がいます。在宅での看護は小児から高齢者、あらゆる疾患や障害、健康問題をもつ人々が対象となります。在宅で生活している療養者とその家族に対する支援や在宅医療、看護に対するニーズが高まっています。また、人々が住み慣れた地域ごとで医療・介護・予防・生活支援・住まいを確保、提供できるように地域包括ケアシステムの構築が推進されています。

入院時から在宅での生活を見据えた退院支援や退院調整を行い、退院後の生活へ継続した看護を提供することが、療養者とその家族が安全・安楽・自立した在宅での生活へ移行することにつながります。在宅で生活している療養者とその家族の状態に合わせた看護援助の実施、福祉用具の活用や多職種との連携・協働によって支援し、生活の質を維持・向上するための看護を学習します。

講義は在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ、在宅看護論Ⅱ、在宅看護論Ⅲの4科目4単位105時間、臨地実習は在宅看護論実習の2単位90時間で在宅看護に必要な知識と考え方、看護技術を学んでいきます。

「在宅看護概論」は在宅で生活する療養者を支える在宅看護とその生活を支える在宅ケアチームの連携、継続看護や在宅施設における看護、在宅看護の対象者である療養者とその家族が「なぜ在宅を選んだのか」「在宅での生活で何を望んでいるのか」を考えながら看護を学びます。

「在宅看護論Ⅰ」は在宅療養を支える訪問看護制度、ケアマネジメント、在宅における看護過程の特徴を学びます。

「在宅看護論Ⅱ」は、在宅療養に必要な日常生活支援、療養者の状態・状況と医療処置に対する看護について学びます。

「在宅看護論Ⅲ」は看護技術として訪問時の面接技術、在宅での看護技術の実施を想定した看護技術をグループで実施していきます。在宅で療養者とその家族にたいする看護技術、事例を用いて看護過程を学んでいきます。

「在宅看護論実習」は地域で療養生活を支える訪問看護ステーション、デイケア（通所リハビリテーション）施設で行います。在宅で生活している療養者やその家族に対する看護、通所施設を利用する療養者の看護を学びます。在宅療養者を支える在宅チームの多職種と協働する中での看護の役割を学びます。

<単位> 4単位 105時間

<目的>

地域で生活する人々とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ。

<目標>

1. 在宅で生活している療養者とその家族を理解する。
2. 在宅で生活している療養者とその家族に対する看護を理解する。
3. 在宅で生活している療養者とその家族に対する看護の知識・技術を修得する。
4. 療養者の生活と健康を支える社会保障制度、社会資源を理解する。
5. 在宅ケアにおける多職種の役割と協働の重要性和看護職の役割を理解する。

<在宅看護論の科目構成と単位時間数等>

科 目	単位	時間	年次	時期	学 習 内 容
在宅看護概論	1	30	1	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護 ・在宅ケアチーム ・入院時と退院支援・退院調整の看護と連携 ・在宅療養者と家族
在宅看護論Ⅰ	1	30	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護を支える制度 ・在宅ケアとケアマネジメント ・在宅看護における支援の基本
在宅看護論Ⅱ	1	30	2	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養者の日常生活への支援 ・在宅療養者の状態・状況と医療管理を必要とする療養者の看護
在宅看護論Ⅲ	1	15	2	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護過程の展開 ・在宅における看護技術
小 計	4単位				105時間
在宅看護論実習 訪問看護実習	2	30	3		
デイケア実習		60	3		
小 計	2単位				90時間
合 計	6単位				195時間

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
在宅看護概論	専任教員	1年次後期	1単位/30時間
科目目標			
1. 在宅看護と目的と基本理念を理解する。 2. 在宅ケアチームにおける看護の特徴を理解する。 3. 継続看護や退院支援・退院調整における看護の連携を理解する。 4. 在宅看護の対象者である療養者を理解する。 5. 療養者の家族の形態、機能の特徴を知り、家族に対する看護を理解する。			
教科書		参考文献	
1) 河野あゆみ他 新体系 看護学全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社		1) 渡辺裕子：家族看護を基盤とした在宅看護論 日本看護協会出版会	
評価方法			
筆記試験・課題			
授業計画			
時間	単元	授業内容等	授業方法
6	在宅ケアと在宅看護	1. 在宅看護をめぐる社会背景 1) 療養者をめぐる社会背景 2) 社会の変化と在宅看護のニーズ 3) 地域における療養者の生活の場 2. 地域を支える看護 1) 地域看護と在宅看護 2) 在宅看護の特性 3. 在宅看護の倫理と基本理念 権利擁護、虐待の防止	講義 グループ ワーク レポート 課題
10	在宅ケアチーム	1. 在宅ケアチームと看護 1) 在宅ケアチームにおける看護の特徴 在宅看護の役割 外来、通所施設 2) 継続看護 入院時、退院支援・退院調整での看護師の役割 2. 退院調整に関わる多職種との連携 3. 在宅での多職種との連携 4. 地域連携クリティカルパス 5. 地域の社会資源	
12	在宅療養者と家族	1. 対象となる療養者 2. 療養者への看護活動 療養者の QOL、健康管理、介護予防、自立支援 ICF、病状・病態の予測と予防 3. 家族の役割、形態、機能の変化 4. 家族の理解 家族システム理論 家族発達論 家族ストレス対処理論 5. 介護負担の影響 ヘルスケア、レスパイトケア	
2	筆記試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数	
在宅看護論 I	専任教員・看護師	2年次前期	1単位/30時間	
科目目標				
1. 在宅看護の法的基盤と訪問看護制度を理解する。 2. 在宅ケアのケアマネジメントを理解する。 3. 在宅看護における看護過程の特徴を学ぶ。				
教科書			参考文献	
1) 河野あゆみ他 新体系 看護学全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社			1) 渡辺裕子他：家族看護を基盤とした在宅看護論 日本看護協会出版会	
評価方法				
筆記試験・課題				
授業計画				
時間	単元	授業内容等	授業方法	授業担当
10	在宅看護を支える制度	1. 在宅看護の法的基盤 1) 介護保険法 2) 健康保険法 3) 障害者総合支援法 4) 在宅医療と診療報酬 2. 訪問看護制度 1) 訪問看護の目的、機能、特徴 2) 訪問看護の実施形態 3) 訪問看護ステーションの運営と管理	講義	看護師
10	在宅ケアとケアマネジメント	1. ケアマネジメント 1) ケアマネジメントとは 2) ケアマネジメントの展開 2. 地域包括ケアシステムと在宅ケア 1) 地域包括支援センター 2) 地域包括ケアと地域ケア会議	講義	看護師
8	在宅看護における支援の基本	1. 看護過程の特徴 1) 療養者のヘルスアセスメント 2) 家族・介護力のアセスメント 介護力に応じた家族支援 事例 3) 看護計画、実施、評価 2. 在宅看護におけるリスクマネジメント	講義 グループワーク レポート	専任教員
2	筆記試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数	
在宅看護論Ⅱ	専任教員・看護師	2年次後期	1単位/30時間	
科目目標				
1. 在宅で生活している療養者に必要な日常生活への支援を理解する。 2. 在宅療養者の状態・状況のあわせた看護を理解する。 3. 医療処置を必要とする療養者と看護を理解する。				
教科書		参考文献		
1) 河野あゆみ他 新体系 看護学全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社		1) 渡辺裕子：家族看護を基盤とした在宅看護論 日本看護協会出版会		
評価方法				
筆記試験・課題				
授業計画				
時間	単元	授業内容等	授業方法	授業担当
8	在宅療養者の日常生活への支援	1. 食事・栄養の支援 2. 排泄の支援 3. 清潔の支援 4. 移動の支援 睡眠と休養、家屋環境 5. 介護予防の支援 6. 在宅での安全管理 転倒防止、熱傷防止、熱中症の防止、感染症 閉じこもりの防止、独居高齢者の防災	講義 演習 グループ ワーク	専任教員
4	在宅療養者の状態・状況と医療管理を必要とする療養者の看護	1. 日常生活活動の低下予防及び疾病の再発予防が必要な療養者 胃瘻、経管栄養法、中心静脈栄養法 膀胱留置カテーテル法、ストーマケア 褥瘡の管理	講義 グループ ワーク	専任教員
2		2. 日常生活でハビリテーションが必要な療養者 補助具や福祉用具の活用、住環境の調整		
4		3. 認知機能低下による日常生活に支援が必要な療養者 服薬管理、日常生活の安全、 社会資源、在宅ケアシステム	講義	看護師
6		4. 呼吸機能低下による日常生活に支援が必要な療養者 在宅酸素療法、包括的呼吸リハビリテーション 人工呼吸器療法（非侵襲的換気療法） 急性増悪の早期発見と対応	講義 グループ ワーク	専任教員
4		5. 最期を在宅で迎えたいと願う療養者 疼痛管理、麻薬の管理 看取り、グリーフケア		
2	筆記試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
在宅看護論Ⅲ	専任教員	2年次後期	1単位/15時間
科目目標			
1. 在宅における看護過程展開の実際を学ぶ。 2. 在宅における看護技術を修得する。			
教科書			参考文献
1) 河野あゆみ他 新体系 看護学全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社			
評価方法			
課題・演習			
授業計画			
時間	単元	授業内容等	授業方法
6	在宅看護の事例展開	1. 療養者とその家族への看護 2. 社会資源・多職種 在宅酸素療法を受けて生活している療養者 (COPD)	講義 演習 レポート グループ ワーク
9	訪問時の看護技術	1. 訪問時のマナー 2. 家庭にある物を使った看護技術※ 物品の準備・工夫、経済性、後片付け 3. 面接技術 自己紹介、情報収集、場の設定 コミュニケーション	※校内実習

統合分野：在宅看護論実習

科目名	科目担当者	実習時期	単位数／時間数
在宅看護論実習	専任教員	3年次	2単位／90時間
履修条件			
1. 専門分野Ⅰの修了していること。 2. 在宅看護論概論、在宅看護論Ⅰ・在宅看護論Ⅱ・在宅看護論Ⅲを終了していること。			
目的・科目目標			
目的：在宅で療養している対象とその家族を理解し、在宅看護の実際を学ぶ。 目標：1. 地域社会で生活している在宅で療養する対象とその家族を理解し、在宅や施設での看護・援助を学ぶ。 2. 在宅療養に関わる社会資源の種類と活用法を理解する。 3. 療養者の生活を支える在宅ケアチームの多職種との協働の実際を理解する。 4. 専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
訪問看護ステーション デイケア（通所リハビリテーション）施設		出席状況・実習内容・実習態度・実習記録・ 事前学習	
授業計画			
1. 実習時期および実習時間 1) 訪問看護ステーション：7.5時間の実習を4日間（30時間） 2) デイケア施設：7.5時間の実習を8日間（60時間） 2. 実習方法 訪問看護ステーション 1) 訪問看護実習で複数の在宅訪問に同行し、在宅療養者とその家族の生活の実際を見学する。 2) 訪問看護した1事例の療養者について情報収集し記録にまとめる。 3) 訪問先で看護の実際を見学、介助をとおして、看護を学ぶ。 4) 在宅ケアチームの多職種との協働の実際を理解する。 5) 実習最終日にカンファレンスを実施する。 デイケア施設 1) デイケア施設で複数の利用者の看護の実際を見学や看護援助をとおして、施設での看護を学ぶ。 2) 1例の利用者について情報収集し記録にまとめる。 3) 施設での多職種との協働の実際を理解する。 4) 実習最終日にカンファレンスを実施する。 その他、詳細は実習要項参照			

統合分野：看護の統合と実践

〈概要〉

看護の統合と実践は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱで学習した内容を、実践により近い形で学習し、知識・技術を統合し実践する基礎的能力を養うことを目的としています。看護の統合と実践（5単位120時間）は、「看護管理」「医療安全」「災害看護」「看護研究」「看護倫理」「統合実習」で構成されています。

「看護管理」は、医療サービスにおける看護管理の意義と役割を学び、良質な看護ケアを提供するための組織・業務管理・人的資源の活用について学びます。さらに、看護実践能力を構成する概念を知り、看護師のチームワークと実際にケアするための方法を学びます。「医療安全」は、安全な看護実践を提供するために、医療の現場における危険因子を認識し、事象事例を分析し安全対策について学びます。「災害看護」は、災害の理解と災害時における看護師の役割を認識し、災害現場で行われる看護の実際を演習で学びます。「看護研究」は、看護研究における研究の意義と方法を理解し、看護研究に必要な基礎的能力を身につけます。「看護倫理」は、看護の倫理規定を学び看護現場の倫理的諸問題を理解します。そして、演習で倫理的観点から患者の人権を尊重し自己の意見を述べることを学びます。「統合実習」は、保健医療チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力を養います。

〈単位〉 7単位 210時間

〈目的〉 基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱで学習した内容を、実践により近い形で学習し、知識・技術を統合し実践する基礎的能力を養う。

〈目標〉

1. 看護管理の意義と役割を理解する。
2. 臨床看護の実践に必要な理論を学ぶ。
3. 医療現場の事故発生要因を知り、安全対策を理解する。
4. 災害看護を理解し、防災対策や災害時の看護につながる基礎的能力を身につける。
5. 看護における研究の意義と方法を理解し、看護研究に必要な基礎的能力を身につける。
6. 看護倫理を知り看護場面の諸問題について倫理的観点から意見が述べられる。
7. 保健医療チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力を養う。

〈看護の統合と実践の科目構成と単位時間数等〉

科目	単位	時間	年次	時期	学習内容
看護管理	1	30	3	前期	・人々の生活と看護のかかわり ・看護管理の基本となるもの ・看護師の仕事とその管理 ・看護の質向上 ・看護管理に求められる能力 ・看護職とキャリア ・看護と経営 ・業務遂行のためのマネジメント ・医療現場における感染対策の実際
医療安全	1	30	3	前期	・医療安全と看護の理念 ・医療事故後の対応 ・事故発生のメカニズムとリスクマネジメント ・患者・家族との協同と安全文化の醸成 ・看護における医療事故と安全対策 ・国の医療安全への取り組み ・組織としての医療安全対策

					<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 ・看護師が関与した医療事故やヒヤリ・ハット ・看護学生の実習と安全
災害看護	1	15	3	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・災害看護の基礎知識 ・災害時要援護者への理解とネットワークの重要性 ・病院災害と防災対策マネジメント ・被災者の心理・援助者の心理への理解と援助 ・災害時における看護の役割と活動内容 ・災害看護と国際看護 ・災害時に必要な医療・看護技術
看護研究	1	30	3	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究とは ・看護研究における倫理 ・看護研究方法論 ・研究論文の構成 ・論文作成の基本ルールとマナー ・論文のクリティーク ・看護研究発表の実際 ・学会参加
看護倫理	1	15	3	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理学の基本的な考え方 ・性と生殖の生命倫理 ・死の生命倫理 ・看護倫理とはなにか ・専門職の倫理 ・倫理的問題へのアプローチ ・看護研究の倫理 ・事例に基づく問題解決演習
小計	5	120			
統合実習	2	90	3	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理実習 ・リーダー実習 ・メンバー実習（複数患者受け持ち）
小計	2	90			
合計	7	210			

統合分野：看護の統合と実践

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
看護管理	専任教員 看護師	3年次前期	1単位／30時間
科目目標			
科目目標 1. 良質な看護ケアを提供するための組織・業務管理・人的資源の活用について学ぶ。 2. 医療サービスにおける看護管理の意義と役割を理解する。 3. 看護に関する法律・制度を理解する。 4. 国内外の専門職団体との連携や国際協力を理解する。 5. 臨床実践能力を構築するための理論や技術を学ぶ。			
教科書		参考文献	
1) 吉田千文他：看護管理 ナッシング・グラフィック看護の統合と実践① MCメデिका出版 2018		1) 佐藤登美：基礎看護学、看護学概論 メディカルフレンド社、2016 2) 小林亜美：看護管理、学研、2013 3) 手島恵他：看護管理学、南江堂、2013 4) 上泉和子：看護管理 看護の統合と実践① 医学書院、2018	
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
時間	単 元	授業内容等	授業方法
2	人々の生活と看護のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 看護職の活動の変遷 看護の役割と対象 	講義 GW
4	看護管理の基本となるもの	<ul style="list-style-type: none"> 看護管理とは 看護管理の基盤となる知識 看護管理のプロセス ・専門職とは 市民・多職種との連携・協働 	
2	看護の仕事とその管理	<ul style="list-style-type: none"> 看護管理で必要なこと ・看護提供システム 	
2	看護の質向上 看護管理に求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> 看護管理と倫理 セルフマネジメントのスキル 人・集団に働きかけるスキル 看護管理能力の基盤となる理論 	
4	看護職とキャリア	<ul style="list-style-type: none"> 人を育て生かす ・社会人になる 看護職としてのキャリア 	
4	看護と経営	<ul style="list-style-type: none"> 医療と経済 看護にかかわる医療と介護制度 病院経営と看護管理 	
2	看護活動を取りまく法律 ・制度	<ul style="list-style-type: none"> 看護管理に関連する法律 保健医療福祉政策と最近の動向 看護と専門機関・職能団体 	
4	業務遂行のためのマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 複数患者を受持つための情報収集 一日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 多重課題の対処 情報収集と伝達方法 	
4	医療現場における感染対策の実際	<ul style="list-style-type: none"> 感染経路別予防策 感染予防対策（事例） 個人防護具着脱、吐物処理 	
2	まとめ、筆記試験		

統合分野：看護の統合と実践

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
医療安全	専任教員・医療安全管理者	3年次前期	1単位／30時間	
科目目標				
1. 医療機関や看護における安全対策、安全文化についての基礎的知識を学ぶ。 2. 安全な医療を提供するための組織としての取り組みや安全対策についての知識と技術を修得する。				
教科書			参考文献	
1) 松下由美子他：ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践②医療安全 MCメディカ 出版			1) 山内豊明他：医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして 南江堂 2) 小林美亜：医療安全、学研 3) 日本看護協会：医療安全推進のための標準テキスト	
評価方法				
筆記試験				
授業計画				
時間	単 元	授業内容等	授業方法	授業担当
1 4	医療安全と看護の理念 医療安全への取り組みと医療の質の評価 在宅看護における医療事故と安全対策 医療事故後の対応 看護学生の実習と安全	医療安全の意味とその重要性 看護職の法的規定と医療安全 国の医療安全への取り組み 看護職能団体の取り組み 国および医療関係団体の示す医療事故の定義と分類 医療事故の報告制度 医療の質の評価 在宅看護の現状 在宅看護における医療事故とその対応 在宅看護におけるリスク管理の現状と課題 医療事故発生時の初期対応の考え方と方法 紛争化防止対策 専門職としての個々人の備え 患者の安全確保と医療者の安心確保のために	講義 演習	専任教員
1 4	事故発生メカニズムとリスクマネジメント 患者・家族との協同と安全文化の醸成 看護における医療事故と安全対策 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	事故発生メカニズム 事故分析 事故対策 患者・家族との協同 医療安全管理者―医療安全を担う新たな役割 全員参加の医療安全：安全文化の醸成 看護業務と事故発生要因 医療事故の種類：その分析 医薬品への暴露 労働形態、作業に伴うもの 患者、同僚および第三者による暴力	講義 演習	看護師
2	筆記試験			専任教員

統合分野：看護の統合と実践

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
災害看護	看護師	3年次前期	1単位／15時間
科目目標			
1. 災害看護の基礎を学び、それぞれの段階における看護の役割について理解する。 2. 災害時に支援ニーズの高い対象が持つ健康ニーズに焦点をあてながら、看護介入を考える。 3. 災害に引き続いて起こる外傷体験及びその反応に影響する身体的・情緒的障害とそれに対する看護介入を考える。 4. 地域住民の災害時における個人のニーズに加え、地域全体を集団としてとらえた看護介入を学ぶ。 5. 国際社会における看護の基礎的な理解をする			
教科書		参考文献	
1) 黒田裕子、酒井明子：災害看護、 ナース・グラフィック看護の統合と実践③、 MC メディカ出版。		1) 酒井明子他：災害看護、南江堂。 2) 辺見弘：看護の統合と実践②災害看護学、 メヂカルフレンド社。	
評価方法			
筆記試験、レポート			
授業計画			
時間	単 元	授業内容等	授業方法
2	災害看護の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類及び被害・疾患の特徴 ・災害サイクル ・災害時の情報収集と伝達 ・災害医療に関する法律問題 	講義
2	災害時要援護者への理解とネットワークの重要性 病院災害と防災対策マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者とは ・災害時におけるネットワークの活用 ・災害各期における看護活動 ・被災者の心理・援助者の心理への理解と援助 ・災害時における保健・衛生管理・感染症対策 ・防災対策の現状 ・合同災害訓練の実際 	演習
2	被災者の心理・援助者の心理への理解と援助 災害時における看護の役割と活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者の心理的特徴と援助 ・援助者の心理状態とその特徴 ・初動時（超急性期・急性期）における看護活動 ・避難所（急性期・亜急性期）における看護活動 ・仮設住宅（亜急性期・復旧復興期）における看護活動 ・復旧復興期における看護活動 	
2	国際看護	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護とは ・国際看護の対象 ・国内と海外における国際看護 	
6	災害時に必要な医療・看護技術	<ul style="list-style-type: none"> ・体系的対応の基本原則 ・災害時のトリアージ ・応急処置・搬送技術 ・止血帯法（院外で行う場合） 	
1	筆記試験		

統合分野：看護の統合と実践

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
看護研究	専任教員	3年次前期	1単位／30時間
科目目標			
1. 看護における研究の意義を理解する。 2. 看護研究における倫理を理解する。 3. 看護研究に必要な基礎的能力（データ収集・論文作成・発表）の基本を理解する。			
教科書		参考文献	
1) 坂下玲子他：系統看護学講座別巻看護研究、医学書院.		1) 南裕子：看護における研究、日本看護協会出版会 2) 川島みどり、黒田裕子：看護のエビデンス、中山書店. 3) 小松浩子、菱沼典子：看護実践の根拠を問う、南江堂. 4) 松本孚他：新版看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方、照林社.	
評価方法			
筆記試験、レポート			
授業計画			
時間	単元	授業内容等	授業方法
2	研究とは	1. 研究の原点について 2. 看護領域における研究とは 3. 看護研究と看護実践	講義 演習
2	看護研究における倫理	1. 医療分野における倫理規制 2. 看護研究と倫理規定 3. 倫理的配慮・同意書の作り方	
8	看護研究方法論	1. 研究に必要な基礎知識 2. 研究方法論の基礎 3. 量的研究・質的研究： 4. ケーススタディ	
2	研究論文の構成	1. 論文の組み立ての実際	
2	論文作成の基本ルールとマナー	1. 研究計画書 2. 学術論文作成のルール	
4	論文のクリティーク	1. 論文クリティークの目的 2. クリティークに必要な知識 3. クリティークの方法	
2	看護研究発表の実際	1. 看護研究発表の準備 2. 効果的なプレゼンテーション 1) 口演発表 2) 示説発表	
6	学会参加	学会参加後、一題の研究論文をレポートする。	
2		まとめ 試験	

統合分野：看護の統合と実践

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
看護倫理	専任教員	3年次後期	1単位／15時間
科目目標			
科目目標 1. 看護の倫理とは何かについて理解する。 2. 臨床場面での倫理的諸問題を理解する。 3. 倫理的観点から自己の意見が述べられる。 4. 患者の人権を尊重する能力を養う。			
教科書		参考文献	
1)宮坂道夫他：系統看護学講座別巻看護倫理、医学書院.		1)大北全俊他：事例でまなぶケアの倫理 MC メディカ出版. 2)杉谷籐子他：学生のための患者さんの声に学ぶ看護倫理、日本看護協会出版会. 3)吉田みつ子：看護倫理、医学書院. 4)岡崎寿美子他：ケアの質を高める看護倫理、医歯薬出版.	
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
時間	単 元	授業内容等	授業方法
4	倫理学の基本的な考え方 生命倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理とはなにか ・倫理理論 ・他者理解と対話のための理論 ・生命倫理とはなにか ・生命倫理の理論 ・生命倫理と看護職の責務 ・守秘義務と個人情報保護 	講義 GW
2	性と生殖の生命倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・性の生命倫理 ・生殖の生命倫理 	
2	死の生命倫理 先端医療と制度をめぐる生命倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・死について ・死と医療 ・死についての生命倫理の課題 ・移植医療 ・再生医療 ・遺伝子医療 ・医療資源と医療保険制度 	
6	看護倫理とはなにか 専門職の倫理 倫理的問題へのアプローチ 看護研究の倫理 事例分析	<ul style="list-style-type: none"> ・看護倫理を学ぶ意義 ・看護倫理の歴史 ・看護の倫理原則 ・看護実践上の倫理的概念 ・看護実践と倫理 ・専門職の倫理綱領 ・看護業務基準と倫理実践 ・保健師助産師看護師法と倫理 ・看護実践における倫理的問題の特徴 ・倫理的問題へのアプローチ ・看護研究に必要な倫理的配慮 	
1	筆記試験		

統合分野：統合実習

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
統合実習	専任教員	3年次後期	2単位／90時間
履修条件			
<p>1. 統合実習には、実習開始までに以下の科目の単位を取得、もしくはその見込みがなければならない。条件となる科目： 看護管理、医療安全、看護倫理、成人看護学実習、老年看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習</p> <p>2. 授業科目の試験を欠席した場合や出席時間数の不足によってこれらの受験資格がない場合は、履修できない。</p> <p>3. 心身ともに健康な状態であることが基本となるので、定期健康診断を受けていること、心身に問題がある人はその治療を受け、自己管理ができていなければならない。</p>			
科目目標			
<p>目的：保健医療チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力を養う。</p> <p>目標：1. 組織の一員としての看護師長の役割を理解し、看護管理の実際を学ぶ。 2. 看護チームのリーダーの役割とその実際を学ぶ。 3. 看護チームのメンバーの役割とその実際を学び、複数患者に必要な看護を実践する。 4. 働く自分をイメージし、看護専門職を目指す自己の課題を明らかにする。 5. 専門職業人を目指す者としての、学習姿勢・態度をもつ。</p>			
実習場所		評価方法	
浅ノ川総合病院		出席状況、実習内容、カンファレンスの内容、実習記録、実習態度、事前学習	
授業計画			
<p>1. 実習期間および実習時間 90時間 13日間（実習オリエンテーションを含める）</p> <p>2. 実習内容 看護管理実習 リーダー実習 メンバー実習（複数患者受け持ち）</p> <p>その他詳細は実習要項参照</p>			